

## (1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
教科指導の充実	<p>授業改善のための授業研究に取り組み、生徒の学力向上に努めます。</p> <p>○生徒による授業評価の実施 【取組状況の確認】生徒による授業評価を2回（1学期、3学期）実施</p> <p>○授業時間の確保 【取組状況の確認】自習時間の減少</p> <p>○理数科の授業に係る指導内容・方法の改善 【取組状況の確認】理数科授業担当者会議の実施</p> <p>○人権学習LHRの充実 【取組状況の確認】人権学習LHRと授業公開の実施</p>	<p>【達成状況の指標】生徒の授業満足度（とても満足＋満足）80%以上</p> <p>【評価結果】83%</p> <p>【達成状況の指標】140回未満</p> <p>【評価結果】98コマ</p> <p>【達成状況の指標】各学期1回以上の開催</p> <p>【評価結果】3回開催</p> <p>【達成状況の指標】各学年1回以上実施</p> <p>【評価結果】各学期3回</p>	<p>教務と上高みらい委員会が連携して、研究授業を6回実施した。外部講師を招聘して、アクティブラーニングに係る研修会を実施し、今後の授業改善につなげることができた。</p> <p>1学期末、年度末に2回実施した生徒による授業評価では、生徒の授業満足度は80%を超えていた。80%未満の科目があるので、教員の授業力を高める必要がある。授業時間を確保するため、自習時間を極力減らす努力は継続している。</p> <p>公開人権学習LHR後に実施する事後検討会への外部からの参加者数が少ないため、工夫の余地がある。</p>
キャリア教育の充実	<p>生徒の進路希望を実現するために、組織的な進路指導体制の確立を目指します。</p> <p>○進路に関する講話や講演会の実施 【取組状況の確認】職業体験談、大学出張講座、卒業生と語る会の開催、理数科独自に、学習合宿、MieSSH、研究室訪問、科学オリンピックへの参加などの活動を行います。</p> <p>○教職員間の情報交換、研修の充実 【取組状況の確認】進路指導部と学年進路係による委員会の開催</p>	<p>【達成状況の指標】各1回以上開催</p> <p>【評価結果】職業体験談、大学出張講座、卒業生と語る会の開催、理数科独自に、学習合宿、MieSSH、研究室訪問、科学オリンピックそれぞれ1回実施</p> <p>【達成状況の指標】委員会開催12回以上</p> <p>【評価結果】11回開催</p>	<p>組織的な進路指導を行うために、他の分掌と連携して、講話や講演を実施した。アンケートの結果、将来の目標を定め、自分の興味や能力に合った進路を選択するために役に立ったと考えている生徒の割合は、80%を超えていた。</p> <p>理数科独自の行事では、アンケートの結果、全ての行事にわたり、100%近い満足度が得られた。今後もさらに大学や企業と連携した取り組みを充実させていきたい。</p>
地域との連携の充実	<p>HAQUAホール（明治校舎）等を活用した地域連携を進めます。</p> <p>○HAQUAホール（明治校舎）の活用 【取組状況の確認】HAQUAホール（明治校舎）を利用した交流回数</p> <p>○学校施設の開放による地域貢献 【取組状況の確認】教科やクラブ等による地域活動への参加</p>	<p>【達成状況の指標】5回以上</p> <p>【評価結果】6回</p> <p>【達成状況の指標】5回以上</p> <p>【評価結果】10回</p>	<p>人権感覚あふれる学校づくり事業の指定を受け、今までの近隣の小学校との交流会に加えて、近隣の中学校との交流会も新たに実施した。まだ一部の教職員・生徒の取り組みであるので、いかにして、学校全体の取り組みにしていくかが課題である。</p> <p>教科・クラブ活動以外に、外国人留学生との交流会や学校の近隣地域のフィールドワークを実施し、生徒の地域に対する意識が徐々に高まっている。</p>

## (2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	授業力を向上させるため、授業研究に対して、前向きに取り組み、自らの教育力を向上させている教職員が多い。また、大学に進学することを目標に本校に進学する生徒が多いことから、授業や学校行事に対する意欲が大変高く、学校行事などは大変充実し、生徒の満足感も高い状況にある。加えて、伊賀地域では伝統校として地域の人々から認識されており、同窓会をはじめ商工会議所や企業などの協力を得やすく、地域の行事や社会貢献活動にも積極的に参加している。
弱み	教職員の平均年齢が比較的 low、年配の教員が少ないことから指導を受けたり相談に乗ってもらったりする機会が少ない。初任者は赴任後6年以内に転勤してしまうことから、地域の状況をしっかり把握できないまま生徒の指導をしなければならない状況にある。また、教職員の多くは、情報の共有不足を感じている。例えば、効果を上げた学年での取り組みが他の学年に伝わらなかったり、同じ分掌内でも、係が異なれば、仕事の内容が分からず、他の教員からの問い合わせに対応できないなどの状況が見られる。

## (3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
<実施回数> 2回	
実施内容	第1回（7月実施）は、学校の概要及び今年度の学校経営の改革方針について説明を行い、地域との連携のあり方、教育活動の質を高めるための方策について意見交換を行った。第2回（3月実施）は、今年度の教育活動について概要説明を行い、学校経営の改革方針における学校自己評価について意見交換を行った。その他、授業公開、文化祭、マラソン大会に学校関係者評価委員が参加し、本校の教育活動の一端を知ってもらうよい機会となった。また、評価委員会に学年主任や一部の分掌主任が参加したことにより、教職員の生の声が委員に伝わり、学校の課題等をより具体的に理解してもらえた。一方、主任も委員の様々な考えを聞くことにより、視野を広げ、課題解決の糸口を見つけることができた。

## (4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	理数科が設置されて6年になり、取り組み内容が定着・充実し、一定の成果がでてきた一方で、地域の伝統ある進学校として、従来から設置されている普通科の魅力化を図る必要がある。今年度から始まった外国人留学生との交流を継続して、生徒が異文化を理解し、日本の文化を発信し、グローバルな視野で物事を考えることができるようになったり、学校の近隣地域のフィールドワークを継続して、地元伊賀地域について興味を持ち、新たな発見をすることにより、故郷に誇りを持ち、幅広い視野を持った生徒の育成をすすめていく必要がある。

## (5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組	
今後の伊賀地域の中学生の減少が見込まれることを踏まえ、普通科の教育内容を見直し、中学生にとっても魅力ある学校づくりに努めていく。英語教育を充実させたり、地域文化の理解を図る活動を取り入れるなど、グローバル化への対応を図る。ホームルーム活動及び総合的な学習の時間の見直しや充実を行い、3年間で一貫性のある教育内容としていく。また、職員アンケートやオフサイトミーティングの結果から、職員の多忙化の解消が課題の一つとして出てきたことを踏まえ、多忙化の原因を探るとともに、会議の週時程内への組み込み、職員間の仕事の平準化や総勤務時間の縮減を図ることができるような工夫を行い、職員自らの意志で活動できるような職場の雰囲気づくりや職員同士が協力できる体制づくりをすすめていく。	